南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

（急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告）

第 42 週　　2026 年 10 月 12 日　　～　　10 月 18 日

今週のコメント

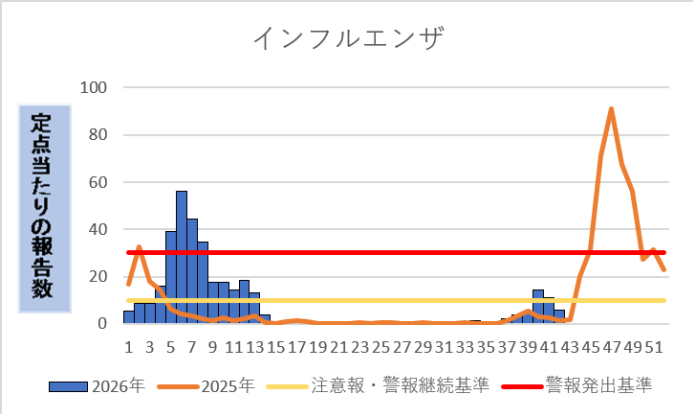
南丹保健所管内では、

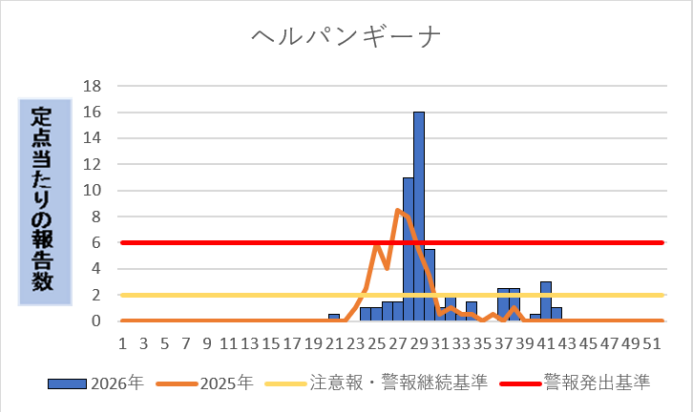
インフルエンザの報告数が減少し、注意報レベルではなくなりました。

2026 年第 42 週の報告です。

〇インフルエンザの定点あたりの報告数は、南丹 5.75（前週 11.25）、京都府 8.8（前週 10.97）となっています。
〇ヘルパンギーナの定点あたり報告数は、南丹 1（前週 3）、京都府 0.67（前週 0.76）となっています。
〇マイコプラズマ肺炎の定点あたり報告数は、南丹 1（前週 0）、京都府 1.43（前週 0.71）となっています。

今週のグラフ　（下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています）





1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

マイコプラズマ肺炎に注意しましょう！

第 42 週南丹保健所管内でマイコプラズマ肺炎の報告がありました。

京都府では定点あたりの報告数が 1.43（前週 0.71）と報告数が増加しています。

通常、秋から冬にかけて流行するため注意が必要です。

マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマ・ニューモニエ（肺炎マイコプラズマ）という細菌による感染症です。一般的な肺炎と異なり、高齢者に少なく、小児～若年成人を中心に流行します。潜伏期間は通常 2～3 週間です。

症状は、頭痛、倦怠感、発熱などの症状が出てきた後、痰を伴うことが少ない乾いた咳（乾性咳嗽）が数週間ほど続きます。多くは軽症ですが、時に重症化し入院治療が必要になることもあります。

飛沫感染と接触感染により伝播するので、流水・石鹸による手洗いやアルコールによる手指の消毒、適切な換気とマスクの着用等で予防しましょう。長引く咳などの症状がある場合は、医療機関を受診してください。

治療にはマクロライド系やテトラサイクリン系の抗菌薬が用いられます。現時点で有効なワクチンはありません。

マイコプラズマ肺炎｜厚生労働省

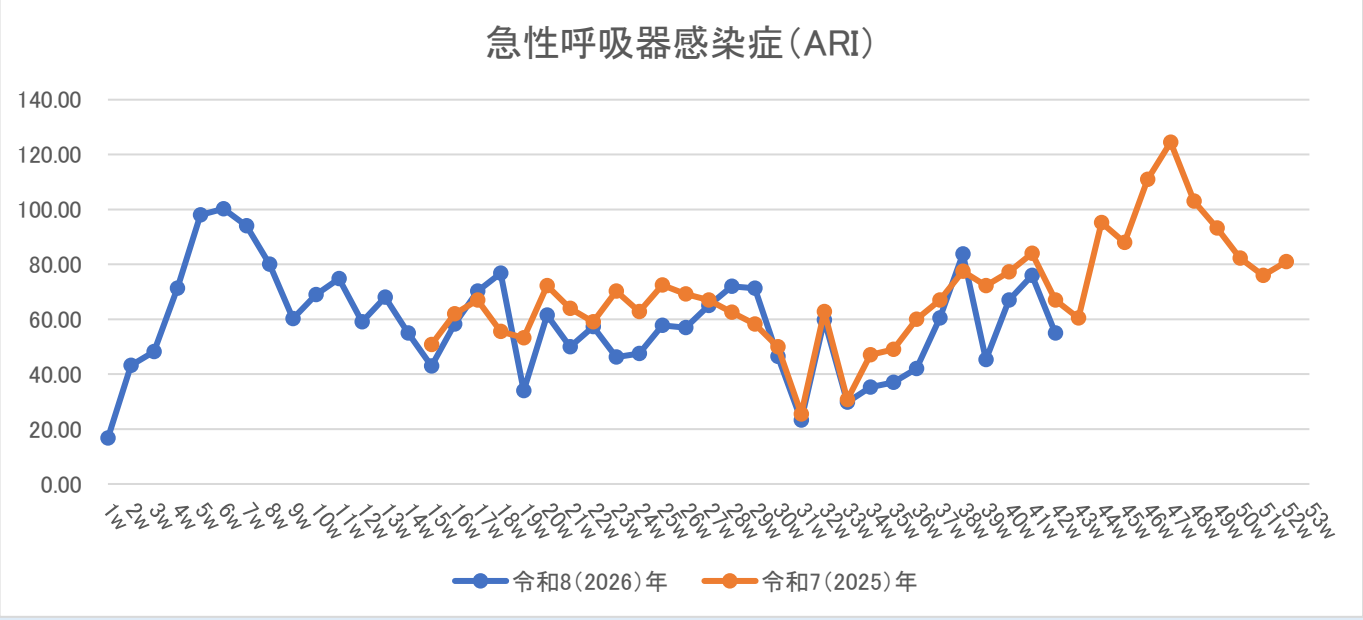
各定点把握疾患　発生状況（南丹管内）

	警報レベル		注意報	R8.42w		前週定点（参考）
	開始	終息		定点当たり報告数	前週比	
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	30	10	10（流行1）	5.75	↘	11.25
新型コロナウイルス感染症				0.50	↘	1.50
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		0.50	↘	1.00
感染性胃腸炎	20	12		0.00	↘	1.50
水痘	2	1	1	0.00	↘	0.50
手足口病	5	2		0.50	↘	3.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	↘	0.50
ヘルパンギーナ	6	2		1.00	↘	3.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症（ARI）について

急性呼吸器感染症（ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RS ウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 42 週報告数は 220 件（定点当たりの報告数 55.00）でした。 京都府の情報はこちら



最新情報は下記のリンク先でご確認ください（関連リンク）

・京都府感染症情報センター

更新時期：（原則）毎週木曜日 14 時　前週分の状況を更新

・感染症の情報（国立感染症研究所）